

長野赤十字病院建替えに関する請願

平成 29 年 6 月 5 日

長野市議会議員 小林 義直 様

請願者 長野市若里五丁目 22 番 1 号
 長野赤十字病院
 院長 吉岡 二郎

紹介議員

志 齊 治 夫 松 林 茂 盛

小林 秀子
 野々村 博美
 両 村 裕子
 (請願趣旨)

市川 和之
 三井 経光
 中野 清史
 小泉 崇正
 小泉 一真

長野赤十字病院建替えに関して請願させていただきます。

当院は、明治 37 年 (1904 年) 4 月に市立長野病院から日本赤十字社長野支部病院として発足して今年で 114 年を迎えました。現在の病院は、昭和 58 年 (1983 年) 10 月に長野市内北石堂地籍から現在地 (若里) へ移転して 34 年目に入ります。

当院は国から大学病院に準ずる高度な診療機能を有する病院 (DPCⅡ群) として認められています。また、救急医療や精神医療などを含めた総合的な入院体制の整った病院として、最上位の施設基準 (総合入院体制加算 1) を取得しています。このような病院は、長野医療圏 (2 次医療圏)、更には北信地域 (3 次医療圏) では当院のみです。

また、災害医療については「長野地域の災害拠点病院」であり、「長野県唯一の基幹災害拠点病院」となっています。

しかし、移転新築時には最新設備を備え、県下有数の規模であった当院も、現在では建設から既に 33 年が経過し老朽化・狭隘化が進み、日進月歩で高度化する医療に適切に対応することが困難な状況です。また、当院は災害時における医療の中心となる災害拠点病院として、耐震化はされているものの免震化が未対応のままです。

以上のことから、平成 37 年 (2025 年) に向けた国の医療提供体制改革を見据えて病院の将来像を検討した結果、病院建替えが必要と考え、新病院建設を平成 37 年 (2025 年) 着工、平成 39 年 (2027 年) 竣工として目指すこととしました。

新病院建設にあたっては、現在地での建替えを検討しましたが、現地建替えは診療機能の著しい低下や工事期間の長期化により、住民の皆様への医療提供に大きな支障が生ずることから、現在地周辺での移転新築が必要と考えております。しかしながら当院は建設可能な用地を所有しておらず、新病院建設の具体的な計画を進めることができない状況にあり、早期に目処を立てる必要があります。

また、新病院建設には多額の費用が必要となります。建設資金を確保するため経営改善に努めているところですが、近年の医療費抑制政策により病院経営は非常に厳しく、十分な資金確保が困難な状況にあります。

当院は「地域医療支援病院」、「救命救急センター」、「地域がん診療連携拠点病院」、「地域周産期母子医療センター」、「基幹・地域災害拠点病院」、「医科・歯科臨床研修指定病院」などの重要な役割を担い、高度急性期・急性期医療を中心に病院運営をしており、入院・外来の患者さんの約8割が長野市民です。

今後も良質で安全な医療を提供し、長野市、長野地域のみならず北信地域の皆様に信頼される基幹的な病院であり続けることが使命と考えています。

このためには、新病院建設が必要不可欠ですが、当院だけでは解決が困難な課題が多くあることから、まずは新病院建設の実現に向けた諸課題について、長野市と包括的に協議させていただきたく次の事項についてお願いいたします。

(請願事項)

- 1 長野赤十字病院建替えに関する諸課題について、長野市と当院で包括的に協議する場を設置すること。